

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 グループホームA		
所在地	愛知県半田市星崎町二丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成24年12月30日	評価結果市町村受理日	平成25年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2392400160-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2階		
訪問調査日	平成25年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、散歩、外出、レクリエーション等によって積極的に取り組んでいます。またご入居様の現存能力を活かして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア、医療との連携を実施しています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションに参加させていただき、余暇活動の一環として取り入れています。重度の方が見え食事の楽しみで入居者様の大好きなメニューを入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名鉄半田駅から近く、ホームの近くには雁宿公園がある閑静な住宅地の一角にある。2階に2ユニットのグループホームがあり、1階にはデイサービスと居宅介護支援事業所が併設されている。玄関には手作りの台紙に理念が掲示され家庭的な和やかさを感じる。広い浴室には2つの浴槽と床暖房が完備され、気の合う同士で温泉気分を味わいながら入浴を楽しんでいる。職員は日々入居者の想いに沿うケアに心がけている。また、各委員会に職員全員が所属し提案や意見を出し合い運営に反映させている。看護師の常駐や協力医の連携のもと医療体制も整っている。朝市や散歩に出かけ、地域の新たな馴染みの場所や人との関わりを楽しんでいる。入居者は、リビングやソファコーナーで好きな歌をうたったりテレビを見ながらゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は玄関等、目に触れ易い所に掲示しており、内容を確認・理解し、全体会議で唱和し取り組んでいる。また各ユニットの目標を掲げ取り組んでいる。	法人の理念は職員や外部からの来訪者にも目に触れやすい場所に掲示されている。全体会議で唱和したり、日々の業務の中で確認し共有しながら支援に努めている。事業所独自の理念はないが、ユニット毎に目標を掲げ、サービス向上に向けた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等のイベントで地域の方に声を掛けさせて頂き、交流を図っている。散歩や市に出かけた時等、近隣の方と声を掛け合うことが出来る。また、地域ボランティアさんによる演奏会等にも参加している。	町内会には加入していないが、事業所の夏祭りには地域にチラシを配ったり、散歩や朝市に出かけた時は、挨拶を交わしたりして交流に努めている。運営推進会議等で地区の民生委員から地域の情報を得て行事などに参加している。	地域密着型の事業所としては町内会等に加入して地域の一員として生活することが望ましい。地域とのつながりを深めていくためにも事業所へのお誘いの時などは、ポスティングだけではなく、顔を合わせてお誘いするなどの工夫をし、地域との交流の深まりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー2級養成講座の学生の受け入れを行い地域の学生さんに認知症の方の理解を深めて頂ける様活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員、行政職員、民生委員の方を交え、話し合いを行ない、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、入居者や家族、行政職員、民生委員等の参加を得て開催されている。入居者家族全員に参加案内を出し、会議記録も配布されている。出された意見やアドバイス等はサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長、管理者が行っており、市の担当者の方と頻りに意見交換し、向上を図っている。	運営推進会議の他、介護保険更新時等に窓口を訪れ、状況報告や相談などを行っている。メールや電話連絡等も頻りに行い協力関係を築いている。市主催の研修等にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チームを作り、防止に努めている。	安全を確保するため、ユニットの入り口は施錠している。デイサービス事業所と合同で身体拘束委員会を設置し、事例等に基づいて話し合いを重ね拘束の理解を深め、ケアするよう努めている。日々のケアでは、「待たせない」に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チームを作り、研修や全体会議にて報告し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいるため資料の掲示や研修会を通じて勉強し相談等実践で活用できるよう環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行なっているが、出来る限り、ご利用者様、ご家族様の不安等にお答え出来る様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会にお見えになられた時等、気軽にお話して頂ける様な雰囲気作りに努め、要望等を聴かせて頂き、反映されるよう取り組んでいる。	入居者からは日頃のケアの中から、家族からは、運営推進会議や面会時等に意見や要望を聞きいている。家族の意見が出やすく、話しやすい環境作りに配慮し、出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やグループホーム会議を通し、現場の意見や提案を聴き、反映している。また、面談の機会を設け意見交換している。	年2回の人事考課や各会議で意見や要望を聴く機会を設けている。日常業務の中で出た意見や改善案も取り入れるようにしている。	会議は皆が忌憚のない意見や要望を出しやすい雰囲気が求められる。職種や就業時間等が多様であるので、みんなの意見が十分に反映されることや参加できなかった職員への周知を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員一人一人の実際の力量を把握するのは難しいが、現場からの声を聴き、環境を良くしようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修等に参加する機会があり積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等にて、他施設の方との交流もあるが、あまり多くの機会はとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に安心して頂けるよう、よく話を聴き、過ごしやすい環境を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会にお見えになられた時等、要望、お話を聴かせて頂き、少しでも満足して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行なう上で必要な支援を共に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護を行なうのではなく、ご利用者様と共に時間の共有、役割分担をし暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関りを大切に、共に過ごす時間が持てるよう努めている。また、生活が楽しく過ごせるようにご家族様と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居という形になるので、馴染みの場所へ行く機会は減ってしまうが、ご友人や、馴染みの方が面会に来られた際には、いつでもお越し頂けるよう声掛けを行なっている。また、朝市へ出掛け、馴染みの方とお会いしている。	デイサービスに通所している利用者が訪ねてきたり、家族と出かけたりすることが多い。近所の朝市へ出かけ馴染みの方と会う機会もある。散歩の折にパン屋と馴染みとなったり、馴染みの美容院に行く方もおり、馴染みの継続支援に心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性等も考えながら、孤立しないよう良い関係が築けるように支援に努めている。また相性的な面があり、喧嘩にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係は大切にしている。必要に応じて連絡・相談等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り希望や思いを把握できるようにしている。コミュニケーションが上手く取れない方には本人本意に考えている。また食事で好きな食べ物を取り入れている。	日々のケアの中で、希望や思いを把握する努力をしている。耳の遠い方は筆談で、意思疎通が難しい方などは個々に沿った方法で把握し、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族様等に生活歴を聴き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、心身の状態等、情報の共有により全員で把握し申し送り情報と状況を観ながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会等でご家族様へのモニタリング、現場スタッフへのモニタリングを実施し、ご本人様の現状に合った計画を作成できるように関係者で話し合い作成している。	面会時等に家族と話し合い、月1回のスタッフ会議でモニタリングをしている。変化がなければ6ヶ月に1回の介護計画更新となるが、本人や家族の要望や変化により随時見直しし、現状に即した介護計画を作成している。	家族へのモニタリングと現場スタッフによるモニタリングがされている。家族には、モニタリングに担当者の顔が見えない不安がある。関係者皆で話し合う機会を取り入れて行くことを願いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記入し気づいた点等は、職員間で情報を共有している。また、重要な情報は赤字等で見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なご利用者様には、デイフロア等での行事や、イベントに参加して頂いている。また、一人一人のニーズに合わせ、柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント等で、ボランティアの参加を呼びかけ、協力しながら盛り上げている。また、市やスーパーに出掛ける等し、楽しんで日々を過ごして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に、定期的な往診をお願いし、何かあった場合はその都度相談に乗って頂いている。また、希望に応じ訪問リハビリを行っている。	入居前のかかりつけ医を継続し、月1回または2回の定期的な往診がある。変化があった場合はすぐに対応出来る関係が築かれており、適切な医療が受けられる体制が出来ている。希望に応じ訪問リハビリを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に気づいた点等あれば、随時相談し、必要に応じ医師に連絡、受診介助を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等、ご利用者様の状況を伺いに行ったり、ご家族様や医療関係者との相談を行なったりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談等あれば随時対応している。また、こちらからもご家族様に連絡させて頂き、状況等お伝えして、ご家族様の気持ちを確認させて頂いている。	入居時に「生命の事前確認書」を取り交わし事業所としての方針を説明している。家族から相談等あれば随時対応し、状況を伝えたり家族の気持ちを確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの掲示や、救命講習の受講を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方への協力依頼を行なっている。避難訓練を行なっている。	消防署指導のもとに年2回避難訓練を行っている。火災や地震を想定した訓練を行い、誘導の実施訓練も行っている。備蓄は食料品や水など3日分あり、有効期限等のチェック体制も出来ている。近隣への協力依頼は口頭で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等はイニシャルにて対応。一人一人に合った声掛けを心掛け、丁寧な言葉かけに十分な配慮をしている。	プライバシーに配慮して、記録やケアをする時の職員同士の声かけはイニシャルで対応している。言葉かけに配慮しているして支援に努めているが、表情や思いやりなどの配慮に十分さを欠く面もある。	日々のケアの中で見落とされがちな言葉や行為など、互いにモデリングをし、気づき合い、見直しをしていく機会を持ち、相互に高まることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で表現し自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿えないこともあるが、出来る限り個人の希望を取り入れ、希望に添って支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、ご自分で選ぶ事の出来る方には選んだりして頂いている。整容は美容師が来所して行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や、片付けの中で、参加して頂ける方には参加して頂いている。また、楽しんで頂ける様に行事食等も随時考えている。	栄養士の立てた献立を基本に利用者の好みや食事量を考慮してユニット毎に作っている。入居者の保有能力に合わせて、準備や片付けを職員と一緒にやっている。食事を楽しみにできるような旬の食材を取り入れたり行事食を随時考え計画している。職員も一緒にテーブルで会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態にて提供したり、水分はチェック表を使用し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施して頂ける様促している。出来ない方は介助させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にて行なえる方は、自己にて行なって頂いている。また、そうでない方は時間で声掛け、誘導している。	排泄チェック表をに基づいて、体調の変化や素振りなど細かく観察しながら自立支援に向けた声かけをしている。夜間は手元にタンバリンを置いたり、布団に鈴をつけるなどして事故防止を含めた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックして便秘薬の服用や食事に繊維の多く含まれている食材や、ヨーグルト等を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、声掛にてご本人様の希望を確認して入浴を行なっているが、身体状況に合わせて曜日を固定している方もいる。また、季節等に応じて、柚子湯や、菖蒲湯等を行なっている。	個浴槽が2つ並ぶ浴室は床暖房になっている。毎日入浴可能であり、可能な範囲で入居者の希望に応じている。入浴拒否がある場合も声掛けなど工夫をして個々にそった入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人に応じて、入眠時間や休息時間を考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全てを把握しきれてはいないが、看護師や薬剤師の協力の下理解に努めている。薬の有無については連絡して把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを実施している。外食や買い物など個別対応も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の方が見えるが、天候が良くご本人様の体調の良い日等に外出している。また、お墓参りや、お見舞い等にも、ご家族様と協力して行って頂いている。	天候が良い日に、本人の体調や気分に合わせて散歩に出かけている。季節ごとの花見や買い物、誕生日外出も行っている。食事会などは1ヶ月に1回程度計画を立て外出をしている。お墓参りや食事会、お見舞い等に家族と出かける入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理が出来る方が居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温等、ご利用者様に合わせ、調節している。また、ご利用者様の作品を飾ったり、季節感を出す為、飾り付け等を行なっている。	事務所を中に左右にユニットが分かれている。ベランダは共用となっている。明るい共用空間は春の花が生けられ、加湿器や空気清浄器も設置され、快適で居心地のよく過ごせる工夫をしている。入居者はそれぞれの居場所で穏やかにゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様同士が思い思いに過ごせるよう席を近くする等している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、好みの物等を置いたりしている。居室の入り口に顔写真を貼らせて頂くなど工夫している。	ベットの部屋、畳の部屋があり入居者の希望や身体状況に合わせた部屋利用となっている。家族と相談して本人の馴染みの物や好みの物を置いて居心地の良い本人らしい居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った生活が送って頂ける様状態を把握し、支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 グループホームB		
所在地	愛知県半田市星崎町二丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成24年12月30日	評価結果市町村受理日	平成25年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成25年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、散歩、外出、レクリエーション等によって積極的に取り組んでいます。またご入居様の現存能力を活かして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア、医療との連携を実施しています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションに参加させていただき、余暇活動の一環として取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は玄関等、目に触れ易い所に掲示しており、内容を確認・理解し、全体会議で唱和し取り組んでいる。また各ユニットの目標を掲げ取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等のイベントで地域の方に声を掛けさせて頂き、交流を図っている。散歩や市に出掛けた時等、近隣の方と声を掛け合うことが出来る。また、地域ボランティアさんによる演奏会等にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー2級養成講座の学生の受け入れを行い地域の学生さんに認知症の方の理解を深めて頂ける様活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員、行政職員、民生委員の方を交え、話し合いを行ない、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	センター長、管理者が行っており、市の担当者の方と頻りに意見交換し、向上を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チームを作り、防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	チームを作り、研修や全体会議にて報告し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいるため資料の掲示や研修会を通じて勉強し相談等実践で活用できるような環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行なっているが、出来る限りご利用者様、ご家族様の不安等にお答え出来る様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会にお見えになられた時等、気軽にお話して頂ける様な雰囲気作りに努め、要望等を聴かせて頂き、反映されるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やグループホーム会議を通し、現場の意見や提案を聴き、反映している。また、面談の機会を設け意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員一人一人の実際の力量を把握するのは難しいが、現場からの声を聴き、環境を良くしようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修等に参加する機会があり積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等にて、他施設の方との交流もあるが、あまり多くの機会はとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に安心して頂けるよう、よく話を聴き、過ごしやすい環境を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会にお見えになられた時等、要望、お話を聴かせて頂き、少しでも満足して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行なう上で必要な支援を共に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護を行なうのではなく、ご利用者様と共に時間の共有、役割分担をし暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関りを大切にし、共に過ごす時間が持てるよう努めている。また、生活が楽しく過ごせるようにご家族様と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居という形になるので、馴染みの場所へ行く機会は減ってしまうが、ご友人や、馴染みの方が面会に来られた際には、いつでもお越し頂けるよう声掛けを行っている。また、朝市へ出掛け、馴染みの方とお会いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性等も考えながら、孤立しないよう良い関係が築けるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係は大切にしている。必要に応じて連絡・相談等行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り希望や思いを把握できるようにしている。コミュニケーションが上手く取れない方には本人本意に考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族様等に生活歴を聴き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、心身の状態等、情報の共有により全員で把握し申し送り情報と状況を観ながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会等でご家族様へのモニタリング、現場スタッフへのモニタリングを実施し、ご本人様の現状に合った計画を作成できるように関係者で話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記入し気づいた点等は、職員間で情報を共有している。また、重要な情報は赤字等で見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なご利用者様には、デイフロア等での行事や、イベントに参加して頂いている。また、一人一人のニーズに合わせ、柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント等で、ボランティアの参加を呼びかけ、協力しながら盛り上げている。また、市やスーパーに出掛ける等し、楽しんで日々を過ごして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に、定期的な往診をお願いし、何かあった場合はその都度相談に乗って頂いている。また、希望に応じ訪問リハビリを行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に気づいた点等あれば、随時相談し、必要に応じ医師に連絡、受診介助を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等、ご利用者様の状況を伺いに行ったり、ご家族様や医療関係者との相談を行なったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談等あれば随時対応している。また、こちらからもご家族様に連絡させて頂き、状況等お伝えして、ご家族様の気持ちを確認させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの掲示や、救命講習の受講を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方への協力依頼を行なっている。避難訓練を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等はイニシャルにて対応。一人一人に合った声掛けを心掛け、丁寧な言葉かけに十分な配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で表現し自己決定できるよう促している。難聴の方は筆談やジェスチャー等を行いコミュニケーションをとり確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿えないこともあるが、出来る限り個人の希望を取り入れ、希望に添って支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、ご自分で選ぶ事の出来る方には選んだりして頂いている。整容は美容師が来所して行っている方も入れば、馴染みの美容院へ行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や、片付けの中で、参加して頂ける方には参加して頂いている。また、楽しんで頂ける様に行事食等も随時考えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態にて提供したり、水分はチェック表を使用し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施して頂ける様促している。出来ない方は介助させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にて行なえる方は、自己にて行なって頂いている。また、そうでない方は時間で声掛け、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックして便秘薬の服用や食事に繊維の多く含まれている食材や、ヨーグルト等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、声掛にてご本人様の希望を確認して入浴を行なっているが、身体状況に合わせている方もいる。また、季節等に応じて、柚子湯や、菖蒲湯等を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人に応じて、入眠時間や休息時間を考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全てを把握しきれてはいないが、看護師や薬剤師の協力の下理解に努めている。薬の有無については把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを実施している。外食や買い物など個別対応も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良く、ご本人様の体調の良い日等に外出している。また、お墓参りや、お見舞い等にも、ご家族様と協力して行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理が難しいので、ご本人様が利用したいときはお金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温等、ご利用者様に合わせ、調節している。また、ご利用者様の作品を飾ったり、季節感を出す為、飾り付け等を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様同士が思い思いに過ごせるよう席を近くする等している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、好みの物等を置いたりしている。居室の入り口に顔写真を貼らせて頂くなど工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った生活が送って頂ける様状態を把握し、支援している。		